

2024年度 医学部 IR 報告書

—2023年度卒業生の初期研修先アンケート
現状と3年間の傾向—

藤田医科大学 IR 推進センター

医学部 IR 分室

2024 年 10 月 31 日



藤田医科大学 I R 推進センター 医学部 I R 分室

2024年度 医学部 IR 報告書

—2023 年度 卒業生の初期研修先アンケート 現状と 3 年間の傾向—

目次

概要

1. 背景と目的
2. 対象
3. 方法
4. 結果 (1) 2023 年度卒業生研修先の調査結果
 (2) 2021～2023 年度卒業生研修先の調査結果の推移
5. まとめ

資料 （依頼状、調査票）

2024 年度 藤田医科大学 I R 推進センター 医学部 I R 分室

一瀬千穂、高村真広、金子祥子、中村早紀、飯塚成志、若月徹、古澤彰浩、
浦久保秀俊、島向健太、藤江里衣子、吉本潤一郎

概 要

「独創的な学究精神を持った謙虚で誠実な医師を育成する。」ことが藤田医科大学医学部の使命であり、卒業時にすべての本学卒業生が身に付ける能力として「卒業コンピテンス（＜医師としてのプロフェッショナリズム＞、＜コミュニケーション能力＞、＜専門職連携＞、＜医学及び関連領域の知識＞、＜独創的探究心＞、＜診療の実践＞、＜地域社会への貢献＞）」と、これに対応する「卒業コンピテンシー」を定めている。

数年にわたり本学が取り組んできたカリキュラム改革の効果を評価するため、本学卒業生の卒業時の能力について第三者の視点があることが望まれる。今回、2023 年度の本学医学部卒業生を卒業 1 年目の研修医として受け入れてくださった病院の直接的指導者に研修 1 日目の「卒業コンピテンス・コンピテンシー」に関する諸項目の修得度を評価していただいた。また、本評価結果に加えて 2021・2022 年度卒業生を対象とした直近の過去 2 年度の評価結果と合わせて、直近 3 年度にわたる変化を調べた。

2023 年度卒業生で 2024 年度 1 年目の初期研修先が判明している 115 人のうち、89 人について回答が得られた（回収率 77.4%）。＜医師としてのプロフェッショナリズム＞、＜コミュニケーション能力＞、＜専門職連携＞、＜医学および関連領域の知識＞、＜独創的探究心＞、＜診療の実践＞、＜地域社会への貢献＞の 7 項目の「最低水準には届いている」と評価された割合は 97.8%から 100%であり、高い水準で維持されていた。また、「概ね、または、完全に習得できている」と評価された割合が特に高かった項目は、＜コミュニケーション能力＞と＜医師としてのプロフェッショナリズム＞であり、それぞれ、82.0%と 74.2%であった。一方で、＜地域社会への貢献＞と＜独創的探究心＞の評価が低く、それぞれ、53.9%と 55.1%であった。

直近 3 年度にわたる分析では、「最低水準には届いている」と評価された割合が、2022 年度から 2023 年度にかけて 7 項目中 6 項目でわずかに減少したが、もっとも低い 2023 年度の＜地域社会への貢献＞でも 97.8%であり、高い水準で維持されていた。「概ね、または、完全に習得できている」と評価された割合は 2022 年度から 2023 年度にかけて、＜医師としてのプロフェッショナリズム＞と＜コミュニケーション能力＞で、それぞれ 11.3 ポイントと 9.6 ポイント減少した。一方で、＜地域社会への貢献＞と＜医学および関連領域の知識＞で、それぞれ、8.1 ポイントと 5.8 ポイント増加した。2022・2023 年度は、2021 年度と比べてすべての項目において評価が高かったが、これは 2022 年度より評価尺度が変化したことによるためと考えられる。

本調査結果から、本学医学部卒業生の卒業コンピテンス・コンピテンシーは、ほとんどの卒業生に対して、少なくとも最低水準には到達できていると研修先病院から評価されていることが確認できた。特に、過去の調査で評価が低かった＜地域社会への貢献＞については改善がみられた。一方で、＜医師としてのプロフェッショナリズム＞と＜コミュニケーション能力＞でやや評価が下がっており、これが一時的なものなのか教育カリキュラムの問題によるものなのか、今後の推移に注意が必要である。

1. 背景と目的

本学医学部は 2015 年度第 1～3 学年よりアウトカム（学習成果）基盤型教育を取り入れた新カリキュラムに移行している。「独創的な学究精神を持った謙虚で誠実な医師を育成する。」ことが藤田医科大学医学部の使命であり、卒業時にすべての本学卒業生が身に着ける能力として「卒業コンピテンス（＜医師としてのプロフェッショナリズム＞、＜コミュニケーション能力＞、＜専門職連携＞、＜医学及び関連領域の知識＞、＜独創的探究心＞、＜診療の実践＞、＜地域社会への貢献＞）」と、これに対応する「卒業コンピテンシー」を定めている。

本学が取り組んできたカリキュラム改革の効果を評価するため、本調査では、2023 年度の本学医学部卒業生を卒業 1 年目の研修医として受け入れて頂いた病院の直接的指導者に、研修 1 日目の「卒業コンピテンス・コンピテンシー」に関する諸項目について、その修得度を評価していただいた。第三者の視点から評価とフィードバックを受け、今後の医学部教育の見直しの資料とする。2023 年度卒業生に対する評価内容を分析するとともに、2022 年度・2021 年度卒業生を対象とした直近の過去 2 年度の評価結果と合わせて、過去 3 年度にわたる変化を調べた。

2. 対象

2023 年度の藤田医科大学医学部卒業生であって、2024 年度の初期研修先が判明している研修医 115 人が対象である。なお、2022 年度と 2021 年度の調査対象者はそれぞれ 107 人と 104 人であった。

3. 方法

2023 年度の本学医学部卒業生を 1 年目の初期研修医として受け入れていただいた病院の臨床研修センター長宛に依頼文と研修医の人数分の質問票を郵送し、研修医の直接的な指導をされた方に、回答と返送を依頼した。研修医が複数名いる病院には、それぞれの研修医に対する評価を依頼した。調査実施期間は 2024 年 7 月から 8 月までであった。

臨床研修センター長宛の依頼文および調査票を巻末に示す。アンケートには病院名を記入していただいたが、集計・分析は匿名化して行った。調査票は 7 つの設問からなり、それぞれ、調査対象の研修医が、研修医 1 年目の初日の能力・資質として、4 段階の評価尺度（1：最低水準には届かない、2：最低水準には届いている、3：最低水準を超え、概ね習得できている、4：最低水準を超え、完全に習得できている。）のどの段階であったかの評価を依頼した。設問は次の通りである。

医師としてのプロフェッショナルリズム	医師としての責任感と職業倫理観に基づいて行動し、生涯にわたり向上心を持ち自己研鑽に励む自覚と能力が身についている。
コミュニケーション能力	お互いの立場を尊重し、相手から信頼される関係を築くためのコミュニケーション能力が身についている。
専門職連携	患者の健康問題の解決に向け、多職種での取り組みを実践する能力が身についている。
医学および関連領域の知識	医療の基盤となっている基礎、臨床、社会医学等の知識を有し、応用する能力が身についている。
独創的探究心	疑問点を解決するために行動する独創的な学究精神と科学的能力が身についている。
診療の実践	安全かつ科学的根拠に基づいた適切な診療を実践する能力が身についている。
地域社会への貢献	地域の保健・医療・福祉の課題を理解し、その解決のために貢献する能力が身についている。

また、最後に自由記載欄を設定し、「何でも結構ですのでコメントを御願います」と依頼した。

本学では、2022・2021 年度卒業生を対象に同様の調査を実施した（それぞれ、2023 年 7 月から 8 月までと 2022 年 7 月から 9 月までを調査期間として実施）。2022 年度卒業生対象の調査方法は、今回と全く同じ内容であったが、2021 年度卒業生対象の調査では、評価尺度が「1：全く修得できていない、2：十分に修得できていない、3：ある程度修得しているが、最低水準には届かない、4：最低水準は修得できている、5：概ね修得できている、6：完全に修得できている。」の 6 段階であった。評価尺度が異なるため正確な比較はできないが、直近 3 年度の変化の傾向を見るために、「最低水準には届いている」と評価された人数とその割合、および、「概ね、または、完全に習得できている」と評価された人数とその割合を設問毎に示した。なお、「最低水準には届いている」とは、今年度実施した 4 段階の評価尺度では「2：最低水準には届いている」以上の評価が得られたことと定義し、過去に実施した 6 段階の評価尺度では「4：最低水準は修得できている」以上の評価が得られたことと定義した。同様に、「概ね、または、完全に習得できている」とは、今年度実施した 4 段階の評価尺度では「3：最低水準を超え、概ね習得できている」以上の評価が得られたことと定義し、過去に実施した 6 段階の評価尺度では「5：概ね修得できている」以上の評価が得られたことと定義した。

4. 結果

(1) 2023 年度卒業生研修先の調査結果

調査対象 115 人のうち 89 人について回答が得られた（回収率 77.4%）。

表1に2023年度卒業生の各調査項目における回答の分布を示す。「2：最低水準には届いている」以上と評価された卒業生の割合は、最も低い＜地域社会への貢献＞でも97.8%であった。「3：最低水準を超え、概ね習得できている」以上と評価された卒業生の割合を項目別に比較すると、＜コミュニケーション能力＞と＜医師としてのプロフェッショナリズム＞の評価が高く、それぞれ、82.0%と74.2%であった。これに対し、＜地域社会への貢献＞と＜独創的探究心＞の評価が低く、それぞれ、53.9%と55.1%であった。

自由記載欄には7件の回答が寄せられた。卒業生の人柄や勤務に対する取り組みを評価するものが4件、今後の成長に期待するものが2件であった。一方研修医としての態度や人柄に問題があると指摘するものが1件あった。

(2) 2021～2023 年度卒業生研修先の調査結果の推移

過去に実施した2022年度・2021年度卒業生を対象にした調査では、調査対象者（それぞれ107・104人）のうちそれぞれ83人（回収率77.6%）と79人（回収率76.0%）から回答が得られた。

表2・3にそれぞれ2022・2021年度卒業生を対象とした各調査項目における回答の分布を示す。また、図1に「最低水準には届いている」と評価された割合の直近3年間の推移を、図2に「概ね、または、完全に習得できている」と評価された割合の直近3年間の推移を示す。

2021年度は、2022・2023年度と比べてすべての項目において評価が低くなっているが、これは前述の通り評価尺度が変化による影響が大きいため、以下では、2022年度と2023年度の比較について述べる。

「最低水準には届いている」と評価された割合は、2022年度から2023年度にかけて7項目中6項目でわずかに減少したが、もっとも低い2023年度の＜地域社会への貢献＞でも97.8%であり、高い水準で維持されていた。「概ね、または、完全に習得できている」と評価された割合は前年度に比較して、＜医師としてのプロフェッショナリズム＞と＜コミュニケーション能力＞で、それぞれ11.3ポイントと9.6ポイント減少した。一方で、＜地域社会への貢献＞と＜医学および関連領域の知識＞で、それぞれ、8.1ポイントと5.8ポイント増加した。

5. まとめ

本調査結果から、本学医学部卒業生の卒業コンピテンス・コンピテンシーはほぼ最低水準には到達できていると研修先病院から評価されていることが確認できた。同じ調査を行った前年度と比べると、「概ね、または、完全に習得できている」と評価された割合が＜コミュニケーション能力＞と＜医師としてのプロフェッショナリズム＞の2項目でやや減少し、＜地域社会への貢献＞と＜医学および関連領域の知識＞の2項目でやや増加した。総合的には、7項目すべてにおいて「概ね、または、完全に習得できている」と評価された割合が50%を超えており、一定の評価が得られたと考えられる。

今回、評価の推移を調べた2021年度から2023年度卒業生は、コロナ禍によって学生生活、講義、実習等で制限を大きく受け、年度の違いによって人との関わり合いの密度や対面での授業時間に大きなばらつきが生じた可能性がある。このことが、＜コミュニケーション能力＞、＜医師としてのプロフェッシ

ヨナリズム>、<医学および関連領域の知識>に対する評価で変化が大きかった一因かもしれない。コロナ禍が収束し、学校生活や授業にほぼ制限がなくなった次年度以降の推移に注視することが今後の課題である。

6. 謝辞

ご多忙のところ本調査にご協力いただきました病院ならびに指導医の皆様、調査依頼や調査結果の回収作業にご尽力いただいた医学部学務課・近藤宏美様をはじめ、関係各位の皆様に御礼申し上げます。

表 1. 各設問の回答分布：2023 年度卒業生への評価

	最低水準には 届かない	最低水準には 届いている	最低水準を超え、 概ね 習得できている	最低水準を超え、 完全に 習得できている
＜医師としての プロフェッショナリズム＞	医師としての責任感と職業倫理観に基づいて行動し、生涯にわたり 向上心を持ち自己研鑽に励む自覚と能力が身についている			
	1 (1.1%)	22 (24.7%)	49 (55.1%)	17 (19.1%)
＜コミュニケーション能力＞	お互いの立場を尊重し、相手から信頼される関係を築くための コミュニケーション能力が身についている			
	1 (1.1%)	15 (16.9%)	47 (52.8%)	26 (29.2%)
＜専門職連携＞	患者の健康問題の解決に向け、多職種での取り組みを実践する能力が 身についている			
	1 (1.1%)	31 (34.8%)	51 (57.3%)	6 (6.7%)
＜医学および 関連領域の知識＞	医療の基盤となっている基礎、臨床、社会医学等の知識を有し、 応用する能力が身についている			
	0 (0.0%)	27 (30.3%)	54 (60.7%)	8 (9.0%)
＜独創的探究心＞	疑問点を解決するために行動する独創的な学究精神と科学的能力が 身についている			
	1 (1.1%)	39 (43.8%)	41 (46.1%)	8 (9.0%)
＜診療の実践＞	安全かつ科学的根拠に基づいた適切な診療を実践する能力が 身についている			
	1 (1.1%)	30 (33.7%)	47 (52.8%)	11 (12.4%)
＜地域社会への貢献＞	地域の保健・医療・福祉の課題を理解し、その解決のために貢献する 能力が身についている			
	2 (2.2%)	39 (43.8%)	39 (43.8%)	9 (10.1%)

() : 未回答者を除く%

表 2. 各設問の回答分布：2022 年度卒業生への評価

	最低水準には 届かない	最低水準には 届いている	最低水準を超え、 概ね 習得できている	最低水準を超え、 完全に 習得できている
＜医師としての プロフェッショナリズム＞	医師としての責任感と職業倫理観に基づいて行動し、生涯にわたり 向上心を持ち自己研鑽に励む自覚と能力が身についている			
	0 (0.0%)	12 (14.5%)	62 (74.7%)	9 (10.8%)
＜コミュニケーション能力＞	お互いの立場を尊重し、相手から信頼される関係を築くための コミュニケーション能力が身についている			
	0 (0.0%)	7 (8.4%)	62 (74.7%)	14 (16.9%)
＜専門職連携＞	患者の健康問題の解決に向け、多職種での取り組みを実践する能力が 身についている			
	0 (0.0%)	31 (37.3%)	49 (59.0%)	3 (3.6%)
＜医学および 関連領域の知識＞	医療の基盤となっている基礎、臨床、社会医学等の知識を有し、 応用する能力が身についている			
	0 (0.0%)	30 (36.1%)	49 (59.0%)	4 (4.8%)
＜独創的探究心＞	疑問点を解決するために行動する独創的な学究精神と科学的能力が 身についている			
	0 (0.0%)	36 (43.4%)	43 (51.8%)	4 (4.8%)
＜診療の実践＞	安全かつ科学的根拠に基づいた適切な診療を実践する能力が 身についている			
	0 (0.0%)	28 (33.7%)	49 (59.0%)	6 (7.2%)
＜地域社会への貢献＞	地域の保健・医療・福祉の課題を理解し、その解決のために貢献する 能力が身についている			
	0 (0.0%)	45 (54.2%)	34 (41.0%)	4 (4.8%)

() : 未回答者を除く%

表 3. 各設問の回答分布：2021 年度卒業生への評価

	全く 修得 できて いない	十分に 修得 できて いない	ある程度 修得して いるが、 最低水準 には 届かない	最低水準は 修得 できている	概ね 修得 できている	完全に 修得 できている
<医師としての プロフェッショナリズム>	医師としての責任感と職業倫理観に基づいて行動し、生涯にわたり 向上心を持ち自己研鑽に励む自覚と能力が身についている					
	0 (0.0%)	3 (3.9%)	7 (9.1%)	30 (39.0%)	34 (44.2%)	3 (3.9%)
<コミュニケーション能力 >	お互いの立場を尊重し、相手から信頼される関係を築くための コミュニケーション能力が身についている					
	0 (0.0%)	2 (2.6%)	7 (9.1%)	18 (23.4%)	45 (58.4%)	5 (6.5%)
<専門職連携>	患者の健康問題の解決に向け、多職種での取り組みを実践する能力が 身についている					
	1 (1.3%)	1 (1.3%)	15 (19.5%)	30 (39.0%)	26 (33.8%)	4 (5.2%)
<医学および 関連領域の知識>	医療の基盤となっている基礎、臨床、社会医学等の知識を有し、 応用する能力が身についている					
	1 (1.3%)	2 (2.6%)	15 (19.5%)	33 (42.9%)	24 (31.2%)	2 (2.6%)
<独創的探究心>	疑問点を解決するために行動する独創的な学究精神と科学的能力が 身についている					
	2 (2.6%)	1 (1.3%)	11 (14.5%)	40 (52.6%)	20 (26.3%)	2 (2.6%)
<診療の実践>	安全かつ科学的根拠に基づいた適切な診療を実践する能力が 身についている					
	1 (1.3%)	2 (2.6%)	13 (17.1%)	32 (42.1%)	25 (32.9%)	3 (3.9%)
<地域社会への貢献>	地域の保健・医療・福祉の課題を理解し、その解決のために貢献する 能力が身についている					
	2 (2.6%)	5 (6.6%)	15 (19.7%)	34 (44.7%)	18 (23.7%)	2 (2.6%)

() : 未回答者を除く%

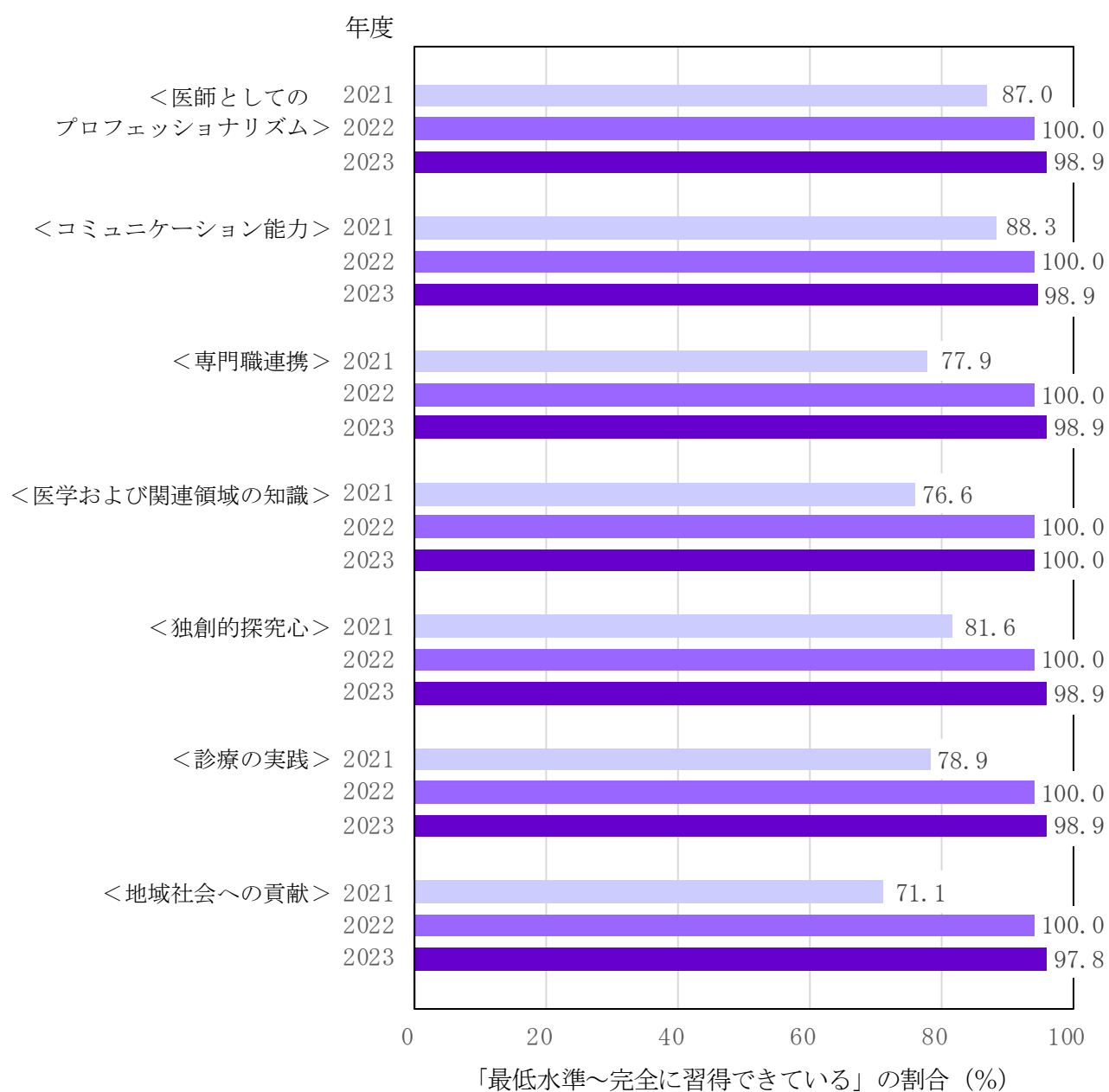


図 1. 「最低水準には届いている」と評価された割合：2021～2023 年度卒業生への評価

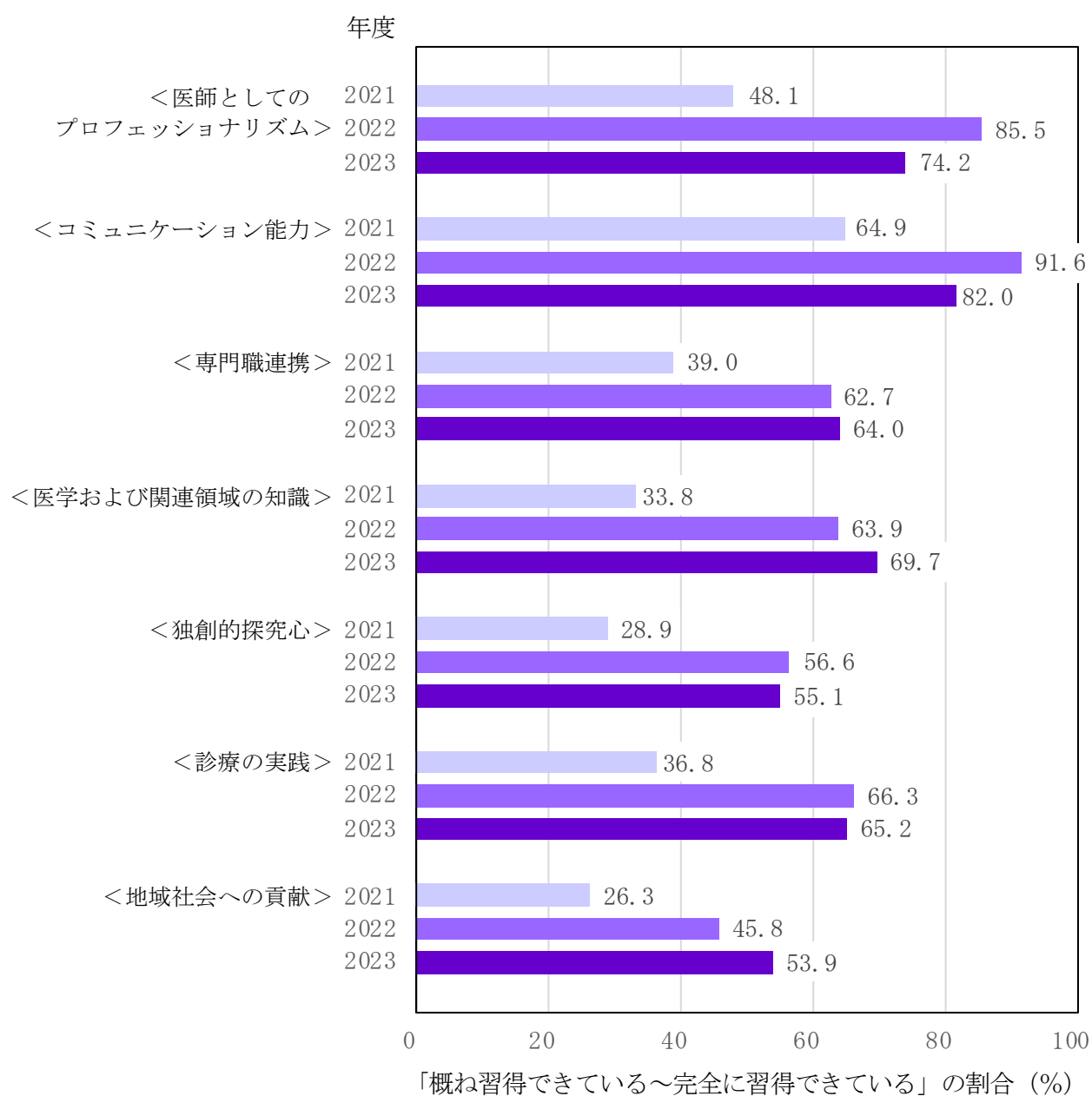


図2. 「概ね、または、完全に習得できている」と評価された割合：2021～2023 年度卒業生への評

価

資料 1. 依頼状（A4、1 ページ）

初期臨床研修 指導医 各位

この調査票は、藤田医科大学 医学部が定める「卒業コンピテンス・コンピテンシー」に関する第三者評価です。コンピテンス・コンピテンシーとは資質・能力のことです。現在の医学教育は学修成果基盤型（アウトカムベース）となっており、卒業時に身につける能力・資質を最初に規定し、これが学修されたときに卒業を認めております。本学の卒業生が、その能力・資質をどの程度身につけているか、勤務先の上長の皆様に第三者の視点から評価をしていただくものです。

本調査結果は、個人が特定されない形で集計・解析し、今後の本学の教育活動の発展にのみ活用致します。各設問について、どの程度身につけているか、以下の6段階の尺度を用いて、マークしていただけますようお願い致します。

【評価尺度：4 段階】

- 1：最低水準には届かない
- 2：最低水準には届いている
- 3：最低水準を超え、概ね習得できている
- 4：最低水準を超え、完全に習得できている

① できていない



④ できている

また、「1. 最低水準に届かない」を選択された場合の理由や要望等を、自由記載欄に具体的に記載いただけますと幸いです。

本学出身の研修医 1 年目が複数名在籍する場合は、人数分の評価を御願い申し上げます。

藤田医科大学 医学部
学部長 岩田 仲生
臨床教育統合活性化委員会
委員長 石原 慎

資料 2. 調査票 (A4、1 ページ)

【医学部 コンピテンス・コンピテンシー】

研修医 1 年目の研修を開始する際に必要な能力・資質として御判定下さい。

No	評価項目	評価	●
1	<p>＜医師としてのプロフェッショナリズム＞</p> <p>医師としての責任感と職業倫理観に基づいて行動し、生涯にわたり向上心を持ち自己研鑽に励む自覚と能力が身についている</p>	① ② ③ ④	
2	<p>＜コミュニケーション能力＞</p> <p>お互いの立場を尊重し、相手から信頼される関係を築くためのコミュニケーション能力が身についている</p>	① ② ③ ④	
3	<p>＜専門職連携＞</p> <p>患者の健康問題の解決に向け、多職種での取り組みを実践する能力が身についている</p>	① ② ③ ④	
4	<p>＜医学および関連領域の知識＞</p> <p>医療の基盤となっている基礎、臨床、社会医学等の知識を有し、応用する能力が身についている</p>	① ② ③ ④	
5	<p>＜独創的探究心＞</p> <p>疑問点を解決するために行動する独創的な学究精神と科学的能力が身についている</p>	① ② ③ ④	
6	<p>＜診療の実践＞</p> <p>安全かつ科学的根拠に基づいた適切な診療を実践する能力が身についている</p>	① ② ③ ④	
7	<p>＜地域社会への貢献＞</p> <p>地域の保健・医療・福祉の課題を理解し、その解決のために貢献する能力が身についている</p>	① ② ③ ④	
●			●

自由記載

※「1.最低水準に届かない」を選択された場合の理由や要望等を 具体的に記載ください。その他ご意見がございましたら記載願います。

施設名：